2019年度 秋学期成果報告会の様子

PBL
Project-Based Learning
推進支援センター通信 Vol. 18

情報技術や人工知能技術AIの発達、グローバル化、少子高齢化がもたらす生産年齢人口の急減などに伴い、人の生き方が大きく変わろうとしています。そのような予見の困難な時代を担う若者のため、学校教育には今、校種間の接続を意識しながら、新たな価値を創造していく力を育成する必要性が求められていると言えるでしょう。

今回は、PBL型の取組みをベースに、今後どのように高大接続を展開していくべきかをテーマに特集しています。主体的・対話的な深い学びを初中等教育で育成し、さらに高等教育において、いかに人間力を涵養していけるかを考察するべく、ヒントを探っていきます。

PBLの積み上げによって深められる学びとは何か
—AI時代到来の中で—

同志社大学PBL推進支援センター長
心理学部教授　神山貴弥

世はまさにAI時代。身近な例では、自動車の自動運転化があります。現在のところ条件なく全ての運転を自動化するレベル５の域にまでは達していないものの、今やAI技術を搭載していない車はないといっても過言ではなく、ブレーキ補助システムなども当たり前になってきています。将棋盤という限られた土俵の中ではありますが、局面に応じて臨機応変な対応力や創造力が求められる将棋の世界でも、近年では一流のプロ棋士もコンピュータに歯が立たなくなっています。このようにAI技術が発展する中で2015年に野村総合研究所は、10～20年後には日本の労働人口の49%が就いている職業がAIやロボット等に代替可能であるという衝撃的な推測結果を発表しています（別の研究（Arnts et al., 2016）では業務単位では自動化される職業は９％程度に留まるとの見解もあります）。

それではAIやロボットに自動化が難しい職業には、どのような特徴があるのでしょうか。前述の野村総合研究所の分析によれば、「創造的思考力」「ソーシャル・インテリジェンス」「非定型」という特徴があげられています。つまり、状況を理解した上で自らの目的意識に沿って方向性や解を提示する能力、高度なコミュニケーションに基づき自分とは異なる他者と協働できる能力、多種多様な状況の中で自ら何が適切であるか判断できる能力、これらの能力が必要とされる業務においては、AIやロボットの代替は難しいということです。

こうしたAI時代の到来も受けて、学校教育も大きく変貌しようとしています。学習指導要領が改訂され、「社会に開かれた教育課程」のもとで「主体的・対話的で深い学び」を推進していくことが求められています。そしてその一翼を担うにふさわしい学びの方法がPBLといえるのではないでしょうか。またPBLを通じて先述の「創造的思考力」「ソーシャル・インテリジェンス」「非定型」にかかわる能力が高められることが大いに期待できます。

このような背景のもと、今回、本センターでは「中高から高大接続へのPBL教育の展望」というテーマのもとシンポジウムを開催することになりました（詳細は本通信に別掲）。同志社法人内の中学から大学におけるPBLの取組みを紹介するとともに、パネルディスカッションを通じてAI時代に求められるPBLによって深められる学びとは何かについて迫っていく予定です。本テーマに関心をお持ちの方はぜひご参加ください。多くの方のご来場を心待ちにしています。

同志社法人内諸学校におけるPBL型授業の取組み　～中高から高大接続へのPBL教育の展望～

法人内諸学校におけるPBLの取組み

同志社中学校における取組み

同志社中学校 教頭
社会科教諭
井口　和之

本報告は、PBLを意識的に取り入れたというよりも「今後の授業はどうあるべきか、またそのための学びの空間はどうあるべきか」を問う中で、おのずとそうなったものです。「文字だけの課題でいいのか」や「実社会と結びつく学びとは」を問ううちに、企業や大学、行政のほうから声をかけていただき「やってみた」だけのことなのですが、この機会にあらためてPBLについて考える一助となれば幸いです。

事　例　報　告

1．アートで表現

実社会では人は文字表現だけでなく、むしろ映像や音楽、ファッションや建築などに影響されることが多い。ならば、子どもたちにも文字表現を制限して何かを主張させるほうが良いのではないかと考えた。２年目以降、大和板紙㈱から格安で硬質段ボールを提供していただき、さらに「商品開発」を視野に取り組んでいる。

2. 大学とのコラボ企画

本校が企業などとコラボしていることを知った京都造形芸術大学からお声かけいただき、造形芸大と高島屋と同志社中学校でコラボした「ミス・パール・プロジェクト」を実施。以来毎年、造形芸大の学生にアシスタントとしてかかわっていただきながら、アート表現の授業を展開している。

3. ㈱山口書店とのコラボ企画

京都の出版社㈱山口書店より、「中学生が作る中学生向けの教材」というのはどうだろうと持ちかけてくださり取り組んでみた。実際に出版するまでには至っていないが、企業の社会貢献（CSR活動）としての学校との共同のモデルケースとなるのではないかと考える。

4. 学びの空間を考える取り組み

ある大手メーカーとの共同研究として、建築と家具の双方の要素を取り入れた「アーキファニチャー」開発にかかわろうとしたもの。形になるまでには至っていないが、中学生の学校に対する率直な思いが見えた取り組みとなった。

5．いま進行しつつある企画

京都市総合企画局と同志社大学の企画、同総合企画局と京都大学の企画に参加予定。

同志社国際高等学校における取組み

同志社国際高等学校
SGH 研究開発実行委員会 委員長
山本　　真司

本校は「持続可能な社会を担うグローバル人材育成プログラム～環境先進国に学び世界に提言～」をテーマに、文部科学省よりSGH（スーパーグローバルハイスクール：2015年度から2019年度の指定）の指定を受けました。SGHは全国の高等学校の中からグローバル・リーダーの育成を先進的に担う学校を指定し、5年間にわたり、その研究開発に一定の支援をするという制度です。

事　例　報　告

１年生においては１単位認定の「総合的な学習の時間」としてＳＧＨ科目（必修）、２年生、３年生では連続履修の科目（自由選択）を設置しました[※注1]。週２単位という限られた時間の中で「グローバルな社会課題を発見・解決し、様々な国際舞台で活躍できる人材（国際機関職員、社会企業家、グローバル企業の経営者、政治家、研究者等）の輩出を意図し、グローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力と問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する」。

この目標を達成するためには、「グローバル・リーダー」ではない教員が従来型の授業を展開するのではなく、生きたグローバル人材をロールモデルとして提示することが先決だと考えました。幸運にも、多くのグローバル人材がこの企画に賛同し、生徒たちのために授業や講演をして下さいました。

※注1
１年生必修科目「Global Understanding Skills（Basic）」では、アクティブ・ラーニングを方法論の軸に、国際連合の掲げるSDGsを手掛かりに問題解決の方法論を学びます。
２年生選択科目「Global Understanding Skills Ⅰ」では、先進事例について詳細なリサーチを行い、ディスカッションやワークショップを通じて問題を明確化し、ドイツでのフィールドワークに導きます。また、その成果を共有する手段を磨きます。
３年生選択科目「Global Understanding Skills Ⅱ」では、学びの整理をし、学習成果を報告会、報告書、ＳＮＳ投稿などを使ってアウトプットしていきます。

同志社大学全学共通教養教育科目におけるPBLの取組み

同志社大学プロジェクト科目における取組み

同志社大学2019年度プロジェクト科目
『留学生と創る!!「Cool Japan 和食職人文化読本」制作プロジェクト（伝統文化継承など今日的課題の観点から）』
科目担当者　遠藤　　正彦

2006年度から始まったPBLによる教養教育の実践である「プロジェクト科目」は、教員が一方的に知識を伝授する講義スタイルとは異なり、地域社会や企業の方々から提案いただいたテーマについて、履修生自身が構想、計画し、ディスカッションを重ね、行動する実践型スタイルの授業です。全学共通教養教育科目であり、学部・学年の垣根を越えてチームとして共に活動し、プロジェクトを進行していきます。

事　例　報　告

プロジェクトのテーマは、「和食職人文化読本を留学生と共に創る」と言うものでした。

まずは、この授業の目的と目標の違いを明確に学生さん達に伝えることから始めました。

目的は、「学生さん自身が、主体的にプロジェクトに取り組むことにより、それぞれ個々人がリーダーシップを持ち達成感を得ること。」そして、目標は「秋の報告会までに、留学生を巻き込んで読本を制作すること。」これを常に念頭に置きながら一年間学生さん達は活動を続けました。

春学期は、チームビルディングと共に読本の社会的意義や目的を全員が納得するまで話し合いました。授業は、リーダーグループで授業前にミーティングをして計画し進めてもらいました。ゲストスピーカーとして、春学期に文化庁 JETRO Leaf編集長、木乃婦をお呼びしました。日本語授業のボランティアも経験。また、留学生と日本文化に触れるツアーも実施しました。

夏休みに合宿を実施、秋学期には学生さん自らアポイントを取って取材に伺いました。そして、留学生とのディスカッションを繰り返し、実際に授業で活用できる副教材を作成しました。学外の日本語学校にもプレゼンに行っています。最終成果報告会では最優秀賞を受賞致しました。

取材先との意思疎通や、デザイン作成や校閲には本当に苦労していました。しかし、自分たちが決めた読本制作の社会的目的を常に思い出しクオリティなども妥協せずにやり切りました。

秋学期は、全員がタスクリーダーとなり、全員がリーダーシップを持ちプロジェクトの達成感を味わいました。学生とreflection面談をしましたが、それぞれ掛け替えのないない体験、学びに繋がり自身のキャリアに関しても気づきが多かったようです。

2019年度　和食職人文化読本「和食の世界」（&単語帳）最終成果報告会での最優秀賞受賞

留学生と川床料理体験イベント
（伝統承継の難しさについて店主講演会）

【プロジェクト科目2020年度採択科目一覧】

テーマ	開講期間	科目担当者		科目代表者	
京田辺校地					
持続可能社会実現プロジェクト−地域資源を活かして−	春・秋	株式会社東洋設計事務所	齋藤　篤史	理工学部	千田　二郎
誰もが楽しめるご当地スポーツの開発プロジェクト	春・秋	一般社団法人共創文化推進委員会	谷口　　彩	スポーツ健康科学部	庄子　博人
SDGs世代に贈る!「こどもと社会をつなげるゲーム」デザイン	春・秋	京都市	伊藤　圭之	理工学部	下原　勝憲
今出川校地					
京都の魅力を発掘し、訪日外国人向けの体験ツアーを作成・実施	秋	Japan Exploration Tours JIN-仁	藤本　賢司	文学部	新　　茂之
留学生と創る!「伝統と革新・京着物文化読本」制作プロジェクト	春・秋	株式会社自在	遠藤　正彦	日本語・日本文化教育センター	高岸　雅子（春学期） 徐　　潤純（秋学期）
ラジオの魅力−学生パーソナリティーの現場から高齢者へ	春・秋		大江　宮子	社会学部	金子　邦秀
京都の伝統織物を学ぶ教育プランプロジェクト	春・秋	一般財団法人日本伝統織物研究所	龍村　　周	理工学部	大久保雅史
クラシック音楽文化を広げよう ～コンサートをプロデュース～	春・秋		鈴木　利奈	文学部	伊達　立晶
地域の共感をよぶ映像制作～まちづくり観光の視点から～	春・秋		森田　誠二	政策学部	井口　　貢
地域課題解決に資するコミュニティカフェのデザイン	春・秋	特定非営利活動法人つながるKYOTOプロジェクト	小辻　寿規	政策学部	佐野　淳也
視覚障がい者と共に楽しめるレクリエーションを企画実行しよう	春・秋		中川由希子	社会学部	JENNIFER MARY MCGUIRE
「子育て×働く」のリアルを探求するキャリア教育プロジェクト	春・秋	株式会社ICB	戎　多麻枝	政策学部	川口　　章
キリスト教会と人々・地域・社会の新たな関わりを提案する	春・秋		加藤　良太	政策学部	新川　達郎
京都・伏見で酒ツーリズムのしくみをつくる	春・秋	有限会社ウミオニア	江口　　崇	社会学部	藤本　昌代
老若コラボによる「現代の課題」ブックレット編集制作	春・秋	特定非営利活動法人市民環境研究所	春山　文枝	経済学部	和田　喜彦

「プロジェクト科目」の活動報告をご覧いただけます!

京都市営地下鉄烏丸線今出川駅の北改札口付近に設置されているショーケースでは、2019年度プロジェクト科目秋学期成果報告会のポスターセッションで使用したポスターなどを展示しています。今出川駅をご利用の際には、是非ご注目ください。
また、プロジェクト科目のホームページでは、各プロジェクトの成果の報告等を発信しています。是非プロジェクト科目ホームページ内の「クラスレポート」ページをご覧ください。
https://pbs.doshisha.ac.jp/

プロジェクト科目　検　索

プロジェクト科目だより

●2019年度プロジェクト科目関連事業 開催報告●

春　学　期

■4月5日(金)　SA/TA説明会
■5月7日(火)　第1回SA/TA協議会
■7月8日(月)　第2回SA/TA協議会

各クラスに1名ずつ配置のSA(ステューデント･アシスタント)、TA(ティーチング･アシスタント)が集まり、説明会および協議会を開催しました。
協議会第1回目では、プロジェクト科目に特化したSA/TA業務についての説明の後、各々自己紹介と意気込みが語られました。第2回目では、具体的な事例をあげながら、学習支援のあり方などについて情報共有がなされ、SA/TAの立場でとるべき対処方法について確認し合いました。

■4月22日(月)　履修生説明会

履修生リーダー、サブリーダー、会計担当者、学生成果報告書担当者を対象に説明会を開催しました。年間スケジュールの確認、企画書の書き方、情報発信を行う際の注意事項、授業運営費の出納や申請方法等について説明がなされ、活動を前に社会に出ても役立つ規則やモラルを学ぶ機会となりました。

■5月20日(月)　企画書作成講座
■6月24日(月)　第1回プロジェクト･リテラシー講習会

企画の立案や企画書作成が初めての経験となる履修生のため2018年度より始まった企画書作成講座では、今年度も合同会社ミラマール川人ゆかり氏を講師に迎え、問題解決のための企画の立て方、説得力のある企画書の作成スキルなどがレクチャーされました。企画づくりの基礎、問題解決のための基本的な思考法を学ぶ貴重な機会となりました。
また「ポスターセッション 大成功への秘訣!」と題したプロジェクト･リテラシー講習会では、パワープレイス株式会社小出暢氏を講師に迎え、ポスター作成の基本的な技術からセッションを行う際の注意点まで、良くない例、良い例の具体的なポスターを使用したデモンストレーションがなされました。後半は、グループに分かれてポスター作成とセッションの実践演習を行い、履修生は、ポスターの役割やセッションで要点を伝える難しさを実感した様子でした。

■7月1日(月)　春学期履修生懇談会
■8月9日(金)　春学期科目担当者･代表者懇談会

履修生懇談会では各クラスの履修生代表が一堂に会し、春学期の活動について情報共有を行いました。取組み内容について各々報告した後、意見交換を行うことで、自身のプロジェクトを客観的に見つめなおす場となりました。
また、担当者･代表者懇談会では、春学期成果報告会の総評･講評や授業アンケート結果等について、プロジェクト科目検討部会の伊達立晶部会長から報告がなされた後、各担当者･代表者から半年間の活動を振り返った報告が行われ、プロジェクトリテラシーの評価や成果報告会の審査のあり方等について活発な議論が交わされました。

■7月28日(日)　春学期成果報告会

京田辺校地同志社ローム記念館にて、春学期成果報告会を開催し、春学期科目2クラスおよび春学期･秋学期連結科目8クラスの履修生が、プロジェクトごとにブースに分かれて、ポスターセッション形式で最終報告または中間報告を行いました。当日はオープンキャンパスも開催されており、高校生や保護者、教育機関関係者や官公庁職員など約180人の参加者で会場は熱気に満ちあふれていました。
表彰式では、学内外の審査員から講評･総評がなされました。課題解決のために求められる取り組みと、導き出された結論との間に微妙なズレが散見される等の厳しい意見の一方、成果報告会で得た痛みや反省を昇華させ、秋の活動に活かして欲しい、との大きな期待が寄せられました。

★最優秀賞：グローバルビレッジを撮る･観る･創る
―ドキュメンタリー映画制作を通して見つめる京のムスリムと多文化共生〈今出川校地開講、春学期〉
★優秀賞：留学生と創る!!「Cool Japan和食職人文化読本」制作プロジェクト
(伝統文化継承など今日的課題の観点から)〈今出川校地開講、春･秋連結科目〉
★特別賞：京都発!「子育て×働く」のリアルを追求する、キャリア教育探求プロジェクト
～ワーク&ライフ･インターン～〈今出川校地開講、春･秋連結科目〉

神山センター長のつぶやき

同志社大学PBL推進支援センターの神山貴弥センター長によるコーナーです。

私自身、大学全体や学部のプロジェクト科目を担当する中で、一人ひとりの学生のたくましさやプロジェクトを通じての成長を身近に感じてきました。そのような中で大切な力の一つがやり抜く力(Grit)です。"Grit?" 気になる方は"Grit", "Duckworth"で検索してみてください。

秋　学　期

■12月2日(月)　第2回プロジェクト･リテラシー講習会

春学期同様、パワープレイス株式会社小出暢氏を講師に迎え、「ポスターセッション実践演習」と題したプロジェクト･リテラシー講習会を開催しました。ポスター作成などの基本的な技術からセッションを行う際の注意点まで、春学期成果報告会の実際のポスターを使用したデモンストレーションがなされ、改善ポイントが示されました。後半のグループに分かれたセッションの実践演習では、履修生は効果的なポスター作りやセッションのコツを掴めたようで、秋学期成果報告会に向け期待が持てる有益なものとなりました。

■12月16日(月)　秋学期履修生懇談会
■1月30日(木)　秋学期科目担当者･代表者懇談会

履修生懇談会では春学期同様、各クラスの履修生代表が集まり、秋学期の活動について報告、振り返りを行いました。状況や課題は様々であっても、活動の集大成を目前にした履修生が語る言葉からは、春学期と比べ、状況に臨機応変に対応する能力が養われたように感じられました。
また、担当者･代表者懇談会では、初めにプロジェクト科目検討部会の伊達立晶部会長から授業アンケート結果の主要な意見に対し回答説明がありました。その後、各担当者･代表者から授業運営や成果報告会のあり方について報告や意見が述べられ、プロジェクトの成果をどのように評価すべきか等の課題について活発な意見交換がなされました。

■1月14日(火)　第3回SA/TA協議会

成果報告会に向けて各クラスが成果をまとめる秋学期終盤に、各クラスのSA、TAが集まり、第3回目の協議会を開催しました。担当クラスの活動状況について振り返り、互いに報告し合いました。報告の中で課題としてあがった、履修生の自主的な活動を促すためのフォローのあり方やイベントの告知や集客方法について、様々な提案や意見が交わされ、今後の学習支援のための貴重な声が聞かれました。

■1月19日(日)　秋学期成果報告会

今出川校地良心館ラーニング･コモンズにて、秋学期成果報告会を開催し、春学期･秋学期連結科目8クラスの履修生が春学期同様、各ブースに分かれたポスターセッション形式にて最終報告を行いました。当日は、企業や教育機関関係者、保護者の方など約140人の参加があり、会場は活気ある議論が繰り広げられるなど、終始盛り上がりを見せていました。
表彰式の講評では、目的と目標が明確化できておらず、まだまだ不十分と思えるところがあるという厳しい指摘があった一方、"対話"重視のセッションを行った高いレベルのクラスが多いと、履修生の努力に賞賛が寄せられ、この経験を通して学んだプロセスを社会に出てからも活かして欲しいと更なる進展を期待する声が聞かれ、盛況のうちに終えることができました。

★最優秀賞：留学生と創る!!「Cool Japan 和食職人文化読本」制作プロジェクト
(伝統文化継承など今日的課題の観点から)〈今出川校地開講、春･秋学期連結科目〉
★優秀賞：未来都市実現プロジェクト―グリーンスマートシティーを目指して〈京田辺校地開講、春･秋連結科目〉
★特別賞：京都発!「子育て×働く」のリアルを追求する、キャリア教育探求プロジェクト
～ワーク&ライフ･インターン～〈今出川校地開講、春･秋連結科目〉

PBLシンポジウム開催のご案内

PBLシンポジウム「中高から高大接続へのPBL教育の展望―同志社法人内諸学校におけるPBL型授業の取組みから―」を開催します。PBLの積み上げによって深められる学びとは何か、本法人内諸学校の事例をもとに議論を深め、PBLに関わる全ての関係者の協働学習の場とします。是非ご参加ください。

日時：2020年3月7日(土) 13：30～16：30
会場：同志社大学 今出川校地烏丸キャンパス【志高館１１２番教室】
申込要（先着150名受付）

シンポジウム詳細は下記PBL推進支援センターのホームページをご覧ください。
https://ppsc.doshisha.ac.jp/

同志社　PBL　検　索

Project Based-Learning

【問合せ先】
同志社大学PBL推進支援センター
〒602-8580
京都市上京区今出川通烏丸東入　今出川校地教務課内
Tel: 075-251-4630　Fax: 075-251-3064
E-mail: ji-pbl@mail.doshisha.ac.jp

【ホームページ】
同志社大学PBL推進支援センター
https://ppsc.doshisha.ac.jp/

同志社大学プロジェクト科目
https://pbs.doshisha.ac.jp/

発行:2020年2月